

## 平成30年度第1回狭山市スポーツ推進審議会会議録

開催日時 平成30年6月28日(木)  
午後7時00分から午後8時30分まで  
開催場所 狭山市役所5階教育委員会室  
出席者 伴好彦委員、渡邊学委員、新井勝委員、新井忠洋委員、星恒夫委員、  
八重樫節子委員、山崎康雄委員、小澤まゆみ委員、村川祐美子委員  
欠席者 伊藤由美子委員  
事務局 向野教育長、滝嶋生涯学習部長、五十嵐スポーツ振興課長、高野主幹、  
須賀主査  
傍聴者 なし

### 議 題

#### (1) 平成29年度社会体育関連事業報告について

狭山市スポーツ推進計画事業計画に基づいて行った平成29年度の事業について、実績報告書を基に説明をした。

### 質 疑

委員 サピオ稲荷山において、障害者対象の水泳教室を24回開催したとあるが、障害者スポーツの取り組み・事業については、まだ狭山市は推進されていないように思う。2020東京オリンピック・パラリンピックを契機に、事業が周知されるよう検討していただきたい。また、所管が障害者福祉課であるが、スポーツの価値を高めていくためにも、スポーツ振興課も合同で推進していただきたい。障害者スポーツについては、所沢市が車椅子バスケットを活発に行っている。

課長 実績報告の中で、障害者を対象としたスポーツ教室については、障害者福祉課所管の水泳教室だけであったが、活動としては、中央公民館で開催したボッチャの体験事業も行っている。スポーツ振興課としても、今後の検討課題であると考えている。また、委員から話があったように、今年度は、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成という観点から、他の所管と共催で事業を予定しているところである。

会長 やはり、機会と場所が非常に大きな問題になってくると思うので、少しでも前進するようにお願いしたい。

委員 市の補助金が減らされている状況の中で、市民体育祭に対する助成金は、あまり減らされていないように見えるが、平成30年度の補助金額の状況について伺いたい。また、障害者の方の市民体育祭への参加については、少ないように感じるが。

事務局 平成30年度の市民体育祭の補助金については、昨年同様、8地区9会場に対して補助している。補助額は、補助年の6月1日現在の各地区の人口で算出しているため、概ね前年同様の額と考えている。

体育祭の競技内容については、狭山台地区と新狭山地区の2会場は、あまり競技性がない状況で実施していると認識している。その他の会場については、各地区、さまざまな競技の趣向を凝らしながら、実態に合った形で開催していると認識している。どんな事情の方も参加できるような体育祭にさせていただくよう、要望していきたいと考えている。

委員 昨年度、関東スポーツ推進委員研究大会に参加した際に、障害者スポーツについて、スポーツ推進委員が、どのように関わったらいいのか、分からないという意見が出ていた。今後、スポーツ推進委員も、障害者の方への指導方法をスポーツ振興課と調整をとり、研修を取り入れながら行っていきたいと考えている。

事務局 行政だけで進めることは難しいところがあるので、スポーツ推進委員とも連携を取りながら、進めていきたいと考えている。

会長 実際、障害を持っている方々との接点がないと、何も見えてこないと思う。トップクラスで競技されている障害者スポーツマンは、援助がいらぬような人たちなので、トップ選手ではない人たちと接点が増えるといいのかと思う。

委員 埼玉県には、県の交流センターを拠点とする埼玉県障害者指導者協議会があり、ここでは講習会を受講して、指導者の資格を取得する事ができる。狭山市民も十数名の方が取得しているので、連携しながら、活動できるといいと思う。

事務局 来年度の事業計画の段階で、検討させていただきたい。

委員 平成30年4月から、日本スポーツ協会において、スポーツ指導者マッチング制度がスタートしている。これは、日本スポーツ協会の有識者の人を学校に派遣する制度である。相手の要望に合わせて有資格指導者を派遣していくという構想のようである。狭山市の状況を伺いたい。

教育長 委員のお話は、今年度から始めた部活動支援員である指導者と、体育協会とのマッチング制度のことだと思う。先生が忙しく、部活動を教えるにあたって、専門性がなくとも顧問をしている状況の中で、外部指導者を雇用するというものである。指導者について、今までは、顧問と一緒に指導をし、顧問と一緒に試合の引率に行く状況であったが、マッチング制度により、顧問はいなくとも、指導員単独で指導ができる。また、対外試合等に指導員単独で子供たちを連れて行けるようになるということである。

狭山市においても、本年度から予算化したところであるが、責任を伴う職であるため、慎重に準備を進めている状況である。

委員 中学校の部活動に関しては、生徒数の減少により、大会に出場する人数を揃えるのが難しいと聞いている。野球やサッカーなど、校外で活動する組織に所属し

ている生徒は、二重登録になってしまうので、学校の部活動に所属できないという状況があり、学校教育の中の部活動との絡みが難しいと感じる。

会 長 部活動に外部の指導者を入れることは、もちろん必要であり、いいことだと思うが、その指導者や学校の先生も含めて、運動の指導者が、競技スポーツとする場面なのか、楽しむスポーツとするものなのかというところを分けて考えられる人が必要である。

委 員 クロスカントリーでは、多くの方にご参加いただき、また、毎年、ボランティアの方にご協力いただいている。現在、スポーツ振興課に登録いただいているボランティアの方が何人いるのか伺いたい。

事務局 現在、34人の登録がある。

委 員 狭山市の場合は、人数が少ないように思う。例えば、飯能市で実施しているウオーキング大会では、中学生のボランティアが大勢おり、中学生が笑顔で送り出しと出迎えをしてくれ、疲れが吹っ飛ばすくらい有難い気持ちになる。支えるスポーツボランティアを、あと2年で定着できるようにならないものかと思う。そういう意味では、学校教育と併せて、ボランティアのカリキュラムを検討していただき、ぜひ、支えるスポーツボランティアの育成について検討していただきたい。

会 長 具体的にスポーツボランティアの人員を増やすことについて、どのような取り組みをしているのか。

事務局 ここ数年は新たな登録はない状況であり、課題として、ボランティア制度について、周知していきたいと考えている。

委 員 スポーツボランティアのネットワークに、ジャパンスポーツネットワークがあり、ここには行政や大学、企業のボランティアも入っている。こういうところと連携をとりながら、ノウハウを聞くことも可能ではないかと思う。行政がボランティアに力を入れて、ボランティアを広げていけば、週1回以上スポーツをする人の割合が高くなると思う。ぜひ、力を入れていただきたい。

会 長 ボランティアを増やす方向で、お願いしたい。

## 議 題

### (2) 平成30年度社会体育関連事業計画について

平成30年度スポーツ教室、行事及び体育協会委託事業・共催事業、レクリエーション協会事業等について資料をもとに説明をした。

## 質 疑

委 員 ふれあいチャリティーリレーについて、事業の説明をお願いしたい。

- 事務局 毎年、実行委員会を組織して準備を進めている。内容としては、周回走の部、ウォーキングの部、仮装の部、学生の部に分かれて、狭山稲荷山公園の周回コースを利用して、90分間でどれだけの距離を走ったり、歩いたり、仮装でどれだけ楽しめるかを競うものである。
- 委員 スポーツ教室について、ニュースポーツを推進するということで、卓球・バドミントン教室は実施できないということなのか。
- 事務局 私どもが開催する教室は、ニュースポーツだけに限ったものではない。ニーズを踏まえて年間事業計画を策定していきたいと考えている。
- 委員 中学生が所属している地域のクラブ活動は、人が中々集まらないのが現状で、それぞれのチームが苦慮している。そういったところを、スポーツ振興課でPRしていただくことが可能かどうか、また、体育協会の中で、計画していただくことが可能か検討していただきたい。
- 委員 部活動について、生徒が、顧問の先生から指導してもらえないという不満をもらしていると聞いた。私たちができることは、小学校などで、審判のお手伝いをするくらいである。先ほど、委員が述べていた、車いすのバスケットは、所沢市では盛んで、学校にも招いてお話を聞いたりして、盛んに交流を行っていると聞いている。狭山市もそういうことができたらと思う。
- 委員 市内中学校に男子バレーボール部がない状況である。できたら、男子バレーボール部を復活し、もっとスポーツを普及していきたいと思う。
- 会長 やはり場所もそうだが、中身的にもどれだけ本気でプレーしてもらえるかというところで、楽しさを感じてもらえる環境を皆で協力していかなければいけないと思う。

## その他

武道館の整備に関する基本方針の改訂について

事務局から、武道館の整備について現状報告をした。

## 会議資料

- ・平成30年度第1回狭山市スポーツ推進審議会 次第
- ・狭山市スポーツ推進計画事業計画 平成29年度事業実績報告
- ・平成30年度社会体育関連事業計画